

わたしの光のいえ”  
ピース・ハウスふれんど”

September 2009

Issue Number 15



ごあいさつ	3
ピースハウスの役割	4
それぞれの今、ここに	5
ホスピス教育研究所の活動	10
ホスピスサポート活動	12
ピースハウス家族の会	12
入退院状況	13
ホスピスケアを受けるために	14
施設内容とスタッフ	15
収支報告	15



シンボルツリー：花水木

# ごあいさつ

ピースハウス病院が開院したのは1993年9月23日、財団法人ライフ・プランニング・センターが設立されてちょうど20年目のことでしたから、財団の歴史は36年、そしてピースハウスは16年ということになります。

財団設立時のポリシーは、「個人に健康の主体性を自覚させ、その生涯を通しての心身の健康管理を、快適な生活環境・快適な自然環境・快適な社会環境・快適な精神環境との関連において考え、人々の社会生活と家庭生活を指導し、適正な医療をタイミングよく提供する」と掲げました。そして、20年目にして財団のポリシーの大きな一部を担う“ターミナル期の医療とケア”を実践する「ピースハウス病院」、そしてそれに関わる教育施設としての「ホスピス教育研究所」がつけられ、しかもそれぞれの施設が16年間の軌跡を刻んできたのです。

日本人の死因として、脳血管疾患を超して癌が第一位となったのは1981年のことでしたが、近年、癌に関する医療技術の進歩はめまぐるしく、完治も多くなりましたし、また、慢性疾患のように癌をもちながらもそれとどのように共存するかという時代になり、それに伴って癌についての一般人の認識も大きな変化を遂げました。釈尊の言葉にあるように、「生老病死」に伴う苦しみや悩みはこの世に生を受けた人間は誰しもが体験するものですが、人生の最期のひと時を過ごす場として「ピースハウス病院」を選んでいただいた患者さんやそのご家族、あるいはご友人に、日々、私たちはどのように向かい合っているのでしょうか。本誌はその一端を知っていただくための報告書です。

「ピースハウスをもっと早くから利用してもらいたい」というのは西立野院長の言葉です。これは医師ばかりでなく、現場を預かる看護師、栄養士、ソーシャルワーカーなどの医療職者、そして献身的にサポートをしてくださる約100名のピースハウスボランティア一人ひとりの思いであり、願いでもあります。“ターミナルケア”とは、死が間近に迫ってから受けるものと誤解されやすいのですが、実は身体的苦痛を和める処置を行い、精神的にも安定して過ごせるようにすることですが、ピースハウス病院は、まさにそれを何よりも大切にしていこうとしています。今後もこれまで以上に、緩和的な入院医療ばかりでなく、地域の在宅医療とのスムーズな中継ぎとしての役割も果たしていくつもりです。

どなたからも「ピースハウスを選んでよかった」という言葉を聞くことができるように、関係者の皆様のご支援のもと、スタッフ一同ころをあわせて取り組んでいきたいと思えます。

財団法人ライフ・プランニング・センター  
理事長 日野原 重明

# ピースハウスの役割

## 理念と基本方針

ピースハウス病院

### 理念

ピースハウスはやすらぎの家である。ここで時を共にする人は皆それぞれの生き方を尊重する。

### 基本方針

1. 患者が、痛みなどの心身の不快な症状の緩和を得て、穏やかに生きてゆくことができるように全人的ホスピスケアを提供する。
2. 愛する人を失う悲しみやその他の心身の反応は自然なことと考えて、かかわりを持ち始めたときから死別の後にいたるまで患者の家族を支援する。
3. 多職種の職員とボランティアがチームを構成し、互いに協力してケアを提供する。
4. 日本の実状に即したホスピスのモデルとして、より良いケアの実践、研究、教育を進める。

2009年4月1日改訂

昨年15周年の節目を過ぎ、病院機能評価更新も果たせました。今年は、建物の大規模修繕、IT化、人事体系の見直し、在宅療養支援診療所立ち上げ準備をプロジェクトとして進めています。

全国の緩和ケア病棟は200施設4000床に届こうとしており、がん診療連携拠点病院をはじめ多くの病院での緩和ケア診療チームの活動に期待が寄せられています。また、在宅療養についても、促進措置がとられています。2007年施行の「がん対策基本法」により緩和ケア啓発普及にさらに拍車がかかりました。

私たちは日常性の維持をケアの大切な目標と考え、患者・家族を支え、良い環境を提供し、家庭的雰囲気を感じながら、苦痛を緩和し、思いやりを届ける努力を続けてきました。今後も、入院、外来、在宅、そしてデイケアでケアを提供していくとともに、地域緩和ケアネットワークの一環として働きます。

ホスピス教育研究所で日本ホスピス緩和ケア協会の事務局を引き続き担当していくとともに、アジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワークや世界規模でのホスピス運動にも関与していきます。

院長 西立野 研二

# それぞれの今、ここに

ホスピスで働くスタッフやボランティア、人生の最期を迎える多くの方々に会い、何十年と生きてこられた方の最後の数週間、時には数日しかない、限られた時間の中でケアに臨む困難さに直面しつつ、大切にしたいことに気づく。そして、ケアを通して自分自身に出会う機会も与えられる。



## あなたに出会う

患者さんやご家族との出会いは、挨拶、そして相手のお名前を呼ぶところから始まる。挨拶を交わすこと、それは互いの存在をみとめること。心を込めてその方の名前を呼ぶ。大事なことは、何かを持っているからとか、何かができるからではない。今、ここにいるあなたが、かけがえのない大切な存在。「今日が、気持ちよい一日でありますように」、そんな願いを心にとめてあなたに出会う。

## それぞれのリズム

元気なときには、自分のペース、リズムで何気なく行っていた日常生活。病気が進み、自分で自分のことができなくなり、他者に依存する生活。少しでも穏やかにと気遣いながら日常生活を援助するとき、第一に大切にしたいことは相手のペースやリズム。呼吸を合わせ、動きを察して手をそえる。互いの動きが一つになって一番気持ちよい姿勢がきまる。





### それぞれの歩み

病気が進み、残された時間が短くなっていると予測されるとき、今できることを大切にしたいと思う。しかし、患者さんの思いは別のところにある。治療への期待を、社会的な役割を、自分らしい生き方をもち続けたいと願う。その願いを大切に受けとめ、日常のケアを丁寧に続ける。患者さん自身が現実を受けとめ、生き方を選択していく過程、それぞれの歩み、そのスピードや流れ（スタイル）に合わせながら一緒にすすむ。

### 考える

治すことが難しい病気、少しずつ進んでいく病状、その現実を受けとめつつも、わずかな可能性にもかけたいと思う。しかし、その難しさに直面するとき、「わかっている。でも、……」気持ちがゆれる。今、この現実をどのように受けとめればよいのか。これからのことをどんなふうに考えればよいのか。自分自身で選ぶことはなかなか難しい。そんな時、現状を説明し、結論を急ぐのではなく、患者さんと話し合いながら、一緒に考える。話しながら、患者さん自身が自分の感情に気づき、何をしたいのか、どんな助けを必要としているのかがわかってくるとき、必要とされるケアのありかたがみえてくる。





### 答えのない問い

からだの痛みや心のつらさを和らげるためのさまざまなアプローチ、しかし、時に、とりきれないつらさがある。このつらい状況から逃げ出すことはできない。答えを出すことの難しい問いに直面している患者さんご家族、その苦しみを真に理解することは難しい。ケアをする者は、何もできずに立ちつくしてしまうこともある。何かをすることがかなわない苦しさを一緒に体験しながら、ケアをしつづける。それが、今、ここでできること、最後までできることではないかと思う。

### 笑顔

さわやかな風、庭の木がゆれている。ベンチに座る患者さん。面会に来られた娘さんとお孫さん、一緒に午後のお茶。入院時、痛みのために顔を曇らせていた患者さんの表情が和み、時おり、笑みも見られる。ご家族の楽しそうな声が聞こえてくる。在宅療養を勧めてみようと思う。





### 物語

初めは病室に伺うことを戸惑っていた看護師が、ベッドサイドで患者さんのお話に耳を傾けている。生まれ育った故郷のこと、楽しかった学生時代、成し遂げてきた仕事、家族のこと、等々。人生の先輩が語る、一つひとつ、なんと深く、重みのある言葉なのだろう。

### 待つ

体がだるく、考えたり、話したりする気になれない。体を動かすことさえつらく感じる時、患者さんは背を向けてじっとしておられる。すこしでも安楽にできることはないかと思うとき、何もしないことが望まれていることのように思われることがある。何かをするのではなく、ただその場にいる。時には、その場から立ち去ることもある。直接かかわるだけでなく、距離をおいて、患者さんへの気づかいを持ち続ける。そして、必要とされるときにはいつでも手を差し伸べられるように準備をして待つ。





## 私に向き合う

死を間近に意識して生きることは、不安で、心が揺れる。ケアにあたるものもまた心が揺れる。そんな自分自身の心に向き合い、なぜ、そんな感情を抱いたのか自分自身と対話してみると、背後にある自分の感情に気づくことができる。自分が何を恐れていたのかに気づいたとき、自分のとる行動を自分自身で選択することができ、自分自身の感情に余裕を持って対処することができる。

自分の感情をありのままに受けとめるとき、患者さんの状況もまたありのままに受けとめることができる。そして、「なぜ私なの?」「私の人生に意味はあるの?」、答えを出すことの難しい問いから逃げることなく、心を閉ざすことなく、向き合う。ホスピスケアの現場は、人間としての成長の機会を与えられる場となる。



大いなるものに抱かれあることを  
今朝吹く風の涼しさに知る

山田 無文老師

# 2008年度ホスピス教育研究所の活動

ピースハウスの2階に位置するホスピス教育研究所は、神奈川県をはじめ全国に向けてのホスピス緩和ケアに関する教育プログラムの提供、院内スタッフ・ボランティアの教育、さらに、国内外の他施設・団体とのネットワーク作りなどを主な業務としています。

また、「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局として、年次大会・理事会・専門委員会の開催、全国の緩和ケアの現状調査、講演会の開催、機関紙の発行などを並行して行っています。

ホスピス教育研究所所長 松島 たつ子

## 1. ターミナルケア人材育成講座の開催

講座名	期日	日数	講師(所属)	参加人数
ホスピス緩和ケア講座	2008年10月～11月	2	西立野研二(ピースハウス病院 院長) 他7名	延98
ホスピスセミナー 緩和ケアのリハビリテーション	2008年7月	1	増田芳之(静岡県立がんセンター 理学療法士)	63
ホスピスセミナー 高齢者の終末期医療と看取り	2008年9月	1	福岡誠之(洛和会ヘルスケアシステム 医師)	83
ホスピスセミナー 家族への支援 -療養中のケア,そして遺族のケア-	2009年2月	1	中山康子(在宅緩和ケアセンター '虹' 代表理事)	69
ホスピスワークショップ リンパ浮腫のケア	2008年11月	1	佐藤佳代子(後藤学園付属リンパ浮腫研究所 所長)	76
ボランティア講座 春期講座 秋期講座	2008年5月～7月 2008年11月～2009年1月	8	志村靖雄(ピースハウス病院ボランティアコーディネーター) 他7名	19
ボランティアアドバンス講座	2008年4月～2009年3月	5	賀来周一(キリスト教カウンセリングセンター相談所長) 他8名	延214
ホスピス公開セミナー (対象:ホスピスケアに関心を持つ個人など)	2008年4月～2009年2月	11	瀬戸ひとみ(ピースハウス病院がん性疼痛看護認定看護師)	延158
ホスピス公開セミナー (対象:民生委員,ボランティア団体など)	2008年7月～2009年1月	4	森口恵子(ピースハウス病院ハウスキーパー) 他2名	延77

## 2. 第16回ホスピス国際ワークショップの開催

期日: 2009年2月7日(土)～8日(日)

テーマ: エンドオブライフ(終末期)ケアの実践  
- 家族構成員に目を向けて -

講師: Dr. Kay de Vries

Faculty of Health and Medical Sciences, Division of Health and Social Care, University of Surrey, UK

Ms. Margaret Reith

Social Work Team Manager, Princess Alice Hospice, Esher, Surrey, UK



Dr. Kay de Vries



Ms. Margaret Reith

- 内容:
- ・終末期ケア: 英国における最近の動向
  - ・家族のケア: 愛する人の死ぬとき
  - ・悲嘆(グリーフ)と死別(ビリーブメント)理論と実践の統合
  - ・認知症者とその介護者の死別と喪失の問題
  - ・子どもを支える: 家族を亡くす時
  - ・ストレス - 自分のケア など

参加人数: 125名

### 3. 研修生の受け入れ

医療職のためのホスピス研修 (計10名)  
鶴巻温泉病院 医師 (1), 遠藤医院 医師 (1),  
東京医療センター 医師 (4), 平塚市民病院 医  
師 (1), 手稲溪仁会病院 医師 (1), 国立成育  
医療センター 医師 (1), 横浜市立病院 看護師  
(1)

緩和ケアナース養成研修 (計14名)

(株)日立製作所日立総合病院, さいたま赤十字病院,  
茨城東病院, 同愛記念病院, 杏林大学医学部付属  
病院, 東京大学医学部付属病院, 相澤病院, 兵庫  
県看護協会すまいる訪問看護ステーション, 岩手  
県立久慈病院, 山口赤十字病院, 上都留賀総合病  
院, 栄光病院, 福井県済生会病院, 名古屋市立東  
部医療センター守山市民病院 (各1)

神奈川県看護協会緩和ケア認定看護師教育課程研  
修生, 教員 (32名)

専門職のためのホスピス研修 (1名)

手稲溪仁会病院 管理栄養士 (1)

医学生のためのホスピス研修 (3名)

東海大学医学部 (3)

看護学生のためのホスピス研修 (2名)

慶應義塾大学看護医療学部 (2)

ホスピス体験実習 (計14名)

神奈川県立七里ヶ浜高等学校生徒 (6), 神奈川  
県立秦野首屋高等学校 (5), 北里保健衛生専門  
学院 (1), ルーテル学院大学 (2)

### 4. ピースハウス見学者への対応 53件 343名

主な見学団体

German Hospice Foundation, ホスピス・マレー  
シア, 東札幌病院, 神山復生病院, 横須賀共済病  
院, 自治医科大学看護学部・大学院, 国際基督教  
大学, 女子栄養大学大学院, 日本財団, 東京都港  
区みなと保健所, 神奈川県医療社会事業協会, 前  
シンガポールアシシホスピスポランティア, 東城  
山ハンドベルグループ, テルモ(株)研究開発センター,  
戸田建設本社医療福祉部計画課 など

### 5. 事例検討会

期 間: 2008年4月~2009年3月 (10回)

主なテーマ

- ・意識障害のある患者のニードの理解とそのケア
- ・過活動型せん妄のある患者への対応
- ・終末期における家族ケア
  - 「モルヒネがいい薬だなんて！」妻の言葉から考えること -
- ・生きる希望を支えるホスピスケア
  - 化学療法に希望を託した患者とそれを支えた

家族から学ぶ -

- ・その人らしさを支えるケア
  - ・ケアを拒否する患者との関わりを通して
  - ・在院期間短縮に伴う栄養ケアの現状と今後の課題
- 延参加人数: 228名

### 6. ホスピスケア研究会

期 間: 2008年5月~2009年2月 (5回)

主なテーマ

- ・患者・家族の感情に向き合う
  - ・旅立ちを創る - カトリックも禅宗も捨てた男 -
  - ・「患者さんと共に泣く」ということ
  - ・希望と平安に生きるために
- 延参加人数: 29名

### 7. Study Day 症状マネジメントを学ぶ

期 間: 2008年5月~2009年3月 (5回)

主なテーマ

- ・症状マネジメント - 疼痛 -
  - ・ターミナル後期の呼吸器症状の緩和
  - ・せん妄症状をもつ患者の看護
  - ・これで作らない! 褥瘡ケア
- 延参加人数: 85名

### 8. 地域緩和ケア研究会

期 間: 2008年4月~2009年1月 (5回)

主なテーマ

- ・神奈川県西部地域における地域緩和ケアネットワー  
ク
  - ・がん診療連携拠点病院の緩和ケアチーム
  - ・ホスピス緩和ケア病棟におけるケアの実際
  - ・在宅療養支援診療所におけるケアの実際と今後の  
課題
  - ・一般病院における緩和ケアの実際と今後の課題
- 延参加人数: 269名

### 9. 医師のための緩和ケア研究会

期 間: 2008年5月・7月 (2回)

主なテーマ

- ・癌性疼痛の評価と治療薬
  - ・乳癌術後, 骨転移のある患者の症状マネジメント
- 延参加人数: 13名

### 10. 研究所会員制度

(図書貸出, 文献検索サービスなど)

会員数 27名

### 11. 機関誌発行

ピースハウス活動報告 (ふれんず Issue No.14)

5,000部

# ホスピスサポート活動

多くの方々のご支援をいただきながら2008年9月、ピースハウスは開院15周年を迎えました。2008年度の支援活動をご紹介します。

## ・府中はなみずき

ピースハウスでケアにあたるスタッフの希望を織り込んだ数々の手作り介護用品の提供、バザーで作った資金による備品提供や美容室の運営サポートなど、開院以来連綿と支援を続けていただいています。

## ・ホスピスサポートチーム

会員の寄付金の他、コンサート、講演会、ミニバザー、書籍販売などの収益金でシャトルバスの購入から運行までピースハウスへの足を支えて下さっている開院以来の財団ボランティアによる支援団体です。

## ・姫由美子と素敵な仲間たち

毎年5月に横浜においてテングラブコンサート(ピースハウスチャリティコンサート)とバザーを開催、ご寄付を継続していただいております。

## ・夢コンサート

N響チェロ奏者徳永兼一郎さんを偲ぶ第12回夢コンサートでご寄付をいただきました。

## ・B・Bサンタクロース事務局による日本プロ野球選手会のチャリティ

今年度第20回で幕を引きました。過去11回にわたり総額300万円を超えるご寄付をいただきました。

## ・ピースハウス友の会

開院と同時に設けられた後援会。ピースハウスのために継続的にご寄付をいただいています。一時的な運営のための寄付を合わせると2008年度は1,600万円にもなります。

## ・ピースハウスボランティア支援寄付

献金箱にいただいた2008年度の支援金は約68万円になりました。

## ・ティertimeコンサート

ボランティア演奏家によるコンサートは、男声合唱、弦楽四重奏、抒情歌、ハンドベルなど5回にわたって行われました。

## ・その他の個人

毎年クリスマスに縫いぐるみやお菓子をプレゼント下さる方、フレンズショップに恒常的に手作り品をご寄付下さる方、介護用古布を送って下さる方、数え切れないほどの無名の善意の方々のご支援をいただきました。

ピースハウスボランティアコーディネーター  
志村 靖雄

# ピースハウス 家族の会

5月翠の風の中、横浜開港150周年祭の華やかな雰囲気を感じられる、山下公園周辺での「野外ぶらっと」。家族の会が、年に2～3回行っているピースハウスを離れての軽いハイキングです。赤レンガ倉庫近くの芝生で、輪になって各自が持参のお弁当を開く頃には、初めて参加された方もすでに顔馴染みの方も、まるで以前からの知り合いのように、お隣どうし楽しそうなおしゃべりに変わっていきました。最初は緊張気味だった方にも笑顔がチラホラ。ピースハウスで、大切な人を送った人達の家族という共有の場が、お互い無理なく解かり合えるのか、どの方もホットした思いを持たれているような和やかなひと時.....。

食後の自由時間には、資料館などを見るグループ、そのままお話しが続く方たち等々、ゆったりとした時間が流れて行きました。

氷川丸船内見学のと、通りすがりの青年にシャッター役をお願いして全員で記念写真。

「なんだか学生に戻って、修学旅行みたいね」

「思い切って参加して良かった。今日のお天気みたいに気持ちがスカッとしました」等の声。

バラが咲き乱れている山下公園からは3グループに分かれての自由解散とし、喫茶店でのお喋りや買い物など.....。

5月にしては少し強い日差しでしたが、皆様と一緒に過ごせた楽しい「野外ぶらっと」でした。

家族の会は今年10月で12才。現在216名の会員で年2回の定期懇親会・数回の小さな集まり「ぶらっとスポット」・会報「悠友」を軸に活動しています。

ピースハウス家族の会 副会長 佐藤 章子



# 入退院状況 (2008年4月～2009年3月)

2008年度の入院患者は246名（前年比3%増）、延べ6,420名（2.4%減）であった。性別では、やや女性が多く、平均年齢は72.3歳と上昇した。平均入院日数は25.8日で前年よりさらに短くなった。いつでも入院相談に応ずることができるような態勢を整え、希望する人をできるだけ受け入れようとした結果が、平均入院日数短縮化に結びついたものと考えられる。原発疾患については、最近の例に漏れず肺癌が最も多かった。患者住所は92%が神奈川県であり、その3分の2が湘南西部・県西部であった。

## 入退院状況 (2008年4月～2009年3月)

- (1) 入院患者数 246名
- (2) 男女別 男114名 女132名
- (3) 平均年齢 72.3歳
- (4) 平均在院日数 25.8日
- (5) 原発疾患

肺癌	64	胃癌	31	結腸癌	19
子宮癌	17	卵巣癌	15	膀胱癌	14
肝癌	14	直腸癌	14	乳癌	9
咽頭癌	7	膀胱癌	7	胆道癌	4
唾液腺癌	4	食道癌	3	腎癌	3
脳腫瘍	3	副鼻腔癌	2	口腔癌(舌、歯肉など)	2
甲状腺癌	2	胆嚢癌	2	前立腺癌	2
原発不明	3	他	13	重複あり	

## (6) 患者住所分布

神奈川県	226	東京都	14	静岡県	3
愛知県	1	兵庫県	1	千葉県	1

## (7) 神奈川県の内訳

平塚市	37	中郡	30	小田原市	25
横浜市	23	秦野市	23	伊勢原市	12
厚木市	10	藤沢市	10	相模原市	8
足柄下郡	8	川崎市	7	足柄上郡	7
茅ヶ崎市	5	南足柄市	5	海老名市	4
鎌倉市	3	横須賀市	3	大和市	2
座間市	2	綾瀬市	1	愛甲郡	1

## (8) 紹介病院一覧

東海大学医学部付属病院	68
小田原市立病院	19
平塚共済病院	19
東海大学医学部付属大磯病院	13
藤沢市民病院	9
平塚市民病院	7
北里大学病院	7
県立足柄上病院	6
秦野赤十字病院	5
国立病院機構神奈川病院	4
海老名総合病院	4
山近記念総合病院	4
神奈川県立がんセンター	4
済生会横浜市東部病院	4
国立がんセンター中央病院	3
小澤病院	3
済生会平塚病院	3

### 以下 各2件

伊勢原協同病院・聖マリアンナ医科大学病院・聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院・東京医科大学大八王子医療センター・聖隷横浜病院・横浜市立大学医学部附属病院・横浜市立市民病院・県立汐見台病院・藤沢湘南台病院・湘陽かしわ台病院・癌研究会有明病院 (順不同)

その他 42施設 各1件

# ホスピスケアを受けるために

ピースハウス病院では、主に治癒が困難ながんの患者さんとご家族に、ホスピス緩和ケアを提供する病院です。入院によるケアだけでなく、外来診療、また、訪問看護ステーションと協力して、在宅ホスピスケアも行なっています。

ケア開始にあたり、ホスピス緩和ケアについてご理解頂くことと、患者さんの現在のご様子について事前に把握させて頂くため、患者さんやご家族と面談の機会を設けております。

## 相談の窓口

ピースハウス病院では、下記の相談についての相談窓口を設けています。

1. 当院への入院に関する相談
2. 当院での外来や訪問診療に関する相談
3. ホスピスに関する一般的な相談
4. ホスピスケアを受けながらの生活に関する相談

これらの相談窓口は、ソーシャルワーカーや看護師が担当しております。また、ホスピス相談には予約が必要ですので、まずは、電話でご連絡下さい。  
電話 0465 - 81 - 8900 (代)

## 相談に必要な医療情報

相談に来院して頂く際には、以下の4点の医療情報が必要です。

1. 診療情報提供書 (各医療機関の用紙)
2. 最近の検査データ (血液・尿検査・感染症・血液型を含む)
3. 現在の症状が判るレントゲンやCTなどのフィルムを数枚
4. ホスピスケア判定用質問用紙 (当院様式)

## 入院までの流れ

相談からケア開始までの流れは以下の通りです。

1. 電話による相談 (ホスピス相談の予約)



2. ホスピス相談



3. ホスピスケア判定会議  
(当院スタッフがケアの開始に必要な事柄について検討)



4. ホスピスケアの開始  
(入院に関しては、判定会議からケア開始までベッドを待つ期間が生じる場合があります。)

なお、ピースハウス病院では、病名告知は必須条件ではありません。患者さんが治癒困難である病状であることを認識し、ホスピスの趣旨を理解されていれば、ピースハウスでのケアを受けることができます。

## 入院費用

医療費に関しては健康保険が適用されます。患者さんによって、高額療養費制度や高齢者医療制度が利用できます。また、保険適用外として、差額ベッド代があります。(4人部屋は差額ベッド代なし)

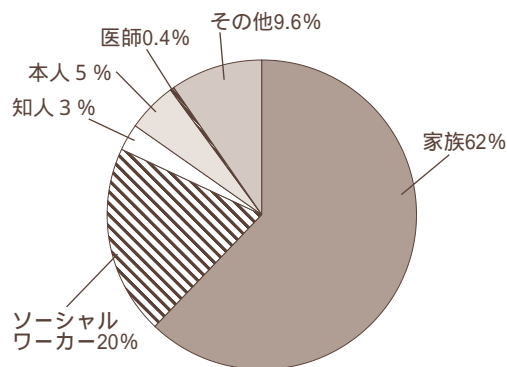
当院に関する情報はインターネットでもご覧頂けます。<http://www.peacehouse.jp/>

## 2008年度の相談状況

相談件数：920件

内 訳

家 族	570件	本 人	48件
ソーシャルワーカー	183件	医 師	4件
知 人	26件	そ の 他	89件



## 施設内容とスタッフ

### 病床数・形態

届出緩和ケア病床（個室14室，4床室2室），  
独立型（2階建，1階病棟，2階ホスピス教育研究所）

### スタッフ

専任医師3名，看護師24名，看護助手4名，  
病棟事務1名，薬剤師2名，MSW1名，チャ  
プレン1名，音楽療法士2名，管理栄養士2  
名，キッチンスタッフ7名，事務員4名，ハ  
ウスキーパー6名，ボランティアコーディネ  
ーター1名，ボランティア97名，運転スタッフ  
3名，教育研究所5名

### 看護体制

プライマリナーシング（受持ち制）

### 総面積

敷地面積：13,053㎡ 建築面積：1,989㎡  
延床面積：3,422㎡ 個室面積：20～23㎡

差額ベッド代 個室以外は無料，個室1日  
18,900円，24,150円（税込み）

### 交通

小田急線秦野駅・JR東海道線二宮駅よりい  
ずれも車で15分  
2駅と病院間に定時のシャトルバス有り

## 2008年度収支報告

2008年度の延入院患者数は，6,420人，1日当  
たり平均在院患者数は，17.6人，平均ベッド稼働率は  
80.0%でした。

経常収入	343,788	千円
経常支出	342,964	
当期経常収支差額	824	
寄附金・会費収入	15,965	
当期収支差額	16,789	千円

## 寄付報告

運営のためのご寄付	118件	12,355	千円
友の会会費	194件	3,610	千円
か と れ あ 会 員	7件	700	千円
は な み ず き 会 員	14件	700	千円
ば ら 会 員	24件	720	千円
さ く ら 会 員	149件	1,490	千円
合 計	312件	15,965	千円

## ピースハウスをご支援下さい

2009年9月にピースハウス病院は，開設満16周年を迎えます。

これまでの皆様方からのご寄附，募金，会費に対し深く感謝すると共に今後のご支援もなにとぞよろしく  
お願い申し上げます。

### ご支援いただくには次の方法があります

#### 1) 運営のための寄付

随時受け付けています。

#### 2) ピースハウス友の会

特定の金額を年会費としてご寄付くださる方の会です  
（年によってどの会員でも選べます）。

かとれあ会員 10万円以上 はなみずき会員 5万円  
ばら会員 3万円 さくら会員 1万円

#### [振込先]

郵便振替口座 00130 - 6 - 407939  
加入者名 財ライフ・プランニングセンター  
ピース・ハウス募金口

備考欄に「運営のための寄付」か「 会員」かご記入下さい。

#### [お問い合わせ先]

ピースハウス / 寄付担当（志村）

TEL 0465 - 81 - 8900 FAX 0465 - 81 - 5520



財団法人  
ライフ・プランニング・センター  
ピースハウスホスピス

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000 - 1

TEL 0465 - 81 - 8900 FAX 0465 - 81 - 5520

ホームページ <http://www.peacehouse.jp/>